

国語 3 経験を基に考えたことを書く (六年生としてがんばりたいこと)

3 島谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことになりました。次は、島谷さんが最初に書いた【文章1】と書き直した【文章2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章1】

わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしい、という思いをもち、正しく使うことができていく学級の様子をよくがし、各学級にしようかいいしたという活動がすばらしいと思いました。

この話を聞き、五年生の時にさيبい委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいっせいに後悔しました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も楽しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいしたいです。

【文章2】

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

その考えの元には、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていく学級の様子をアよくがし、各学級にしようかいいしたいです。

この話を聞き、五年生の時にさيبい委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいっせいに後悔しました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も楽しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいしたいです。

- 1 島谷さんは、【文章2】の...の部分をもとに、自分の考えを最初のように、自分の考えが明確に伝わるように、自分の考えを最初のように、自分の考えが最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 2 説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。
- 3 自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいっせいに後悔しました。
- 4 自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをいっせいに後悔しました。

二 島谷さんは、川口さんと【文章2】を読み合い、感想を伝え合いました。次の「伝え合いの様子の一部」をよく読み、あとの問いに答えましよう。

【伝え合いの様子の一部】

島谷さん 私のがんばろうとしていることが伝わるかな。

川口さん 伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもたしているからだね。

島谷さん それはよかった。他に気づいたことはあるかな。

川口さん 最後の段落がいいね。なぜかというところ、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年ががんばろうとしていることがよくわしく伝わってきたよ。

島谷さん ありがとう。自分でもふり返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。

〜(伝え合いが続く)〜



(問い) 島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことになりました。あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。次の条件に合わせ、書ましよう。

- (条件)
- 【文章2】のよさを書くこと。
 - 【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の原用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書ましよう。
※◆の印から書ましよう。どちらうで行を変えないで、続けて書ましよう。

Grid for writing the answer, with a 100-character scale at the bottom.

三 鳥谷さんは、「文章2」を読み、習っている漢字がひらがなになっていた。部ア、イ、ウを漢字に書き直すことにしました。

次の部アを漢字でいねいに書きましょう。

南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができていく学級の様子をアろくがして、各学級にしようかいしたそうです。

次の部イを漢字でいねいに書きましょう。

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをイはんせいしました。

次の部ウを漢字でいねいに書きましょう。

運動が苦手な人もウしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。

四 鳥谷さんは、「六年生としてがんばりたいこと」を手紙で伝えたいと思い、(一)を書きました。そして、相手の読みやすさを考えて(二)のように書き直しました。鳥谷さんが書き直すときに気をつけた内容として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

(一)

うららかな春の日が続いています。
いかがお過ごしでしょうか。
わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。

(二)

うららかな春の日が続いています。
いかがお過ごしでしょうか。
わたしは今年、六年生としてがんばりたいことがあります。

- 1 どのやはねの書き方
- 2 文字の大きさ
- 3 文字と文字との間
- 4 行の中心

出題の趣旨

文章全体の構成に着目して文章を整えたり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けたりすることができるかどうかをみる。

読み手に自分の考えを明確に伝えるためには、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整えることが必要である。その際、第5学年及び第6学年においては、内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの用い方は適切かといったことなどを観点として、文や文章を整えることが大切である。

また、推敲で取り上げた観点を含め、様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想や意見を伝え合うことによって、他者の文章のよいところを見付けるだけでなく、自分の文章のよいところを見付けることができるようにすることが大切である。

本問では、「六年生としてがんばりたいこと」を書く場面を設定した。島谷さんは、自分の考えが明確に伝わるように、文章を書き直したり、友達の川口さんと書いた文章を読み合い、感想を伝え合ったりしている。ここでは、文章全体の構成に着目して文章を整えたり、伝え合った感想や意見を基に、自分の文章のよいところを書いてまとめたりすることが求められる。また、相手の読みやすさを考えて漢字を正しく書くことや、行の中心に注意して書くことも求められる。

なお、設問二では、〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」の「共有」に関する指導事項を取り上げている。この指導事項を本調査で取り上げることは初めてである。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。

設問一

趣旨

文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	1	1 と解答しているもの	59.4	◎
	2	2 と解答しているもの	15.3	
	3	3 と解答しているもの	7.5	
	4	4 と解答しているもの	15.1	
	99	上記以外の解答	0.2	
	0	無解答	2.5	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は59.4%であった。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題があると考えられる。ここでは、島谷さんが、自分の考えが明確に伝わるように、文章全体の構成に着目して文章を整え、自分の考えを最初に書いていることを捉える必要がある。
- 解答類型2は、自分の考えが明確に伝わるように書いていることは捉えているが、引用して書くことと自分の考えを書くこととの区別ができなかったと考えられる。
- 解答類型4は、文章全体の構成に着目して文章を整えていることは捉えているが、考えの理由を最初には書いていないことを捉えることができなかつたと考えられる。この中には、最初に書き加えたことの意図を捉えることができなかつた児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える

○ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えるとは、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」の指導事項を観点として、文や文章を推敲することである。第5学年及び第6学年においては、文章全体を見たときに、内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフなどの用い方は適切かといったことなどを観点として推敲することが重要となる。

本設問では、島谷さんが「六年生としてがんばりたいこと」というテーマで書いた【文章1】を推敲し、自分の考えが明確に読み手に伝わるように、文章全体の構成に着目して文章を整え、自分の考えを最初に書いていることを捉えることが求められる。

学習指導に当たっては、書く相手や目的に応じて自分が書いた文章を読み直し、整えることができるように指導することが大切である。その際、読み手にとって分かりやすい文章

にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じることができるようにすることが重要である。

また、推敲する際には、観点を明確にすることが重要である。観点を設定する上では、〔思考力、判断力、表現力等〕の推敲に関する指導事項の系統を踏まえることが大切である。また、第1学年及び第2学年においては、〔知識及び技能〕の(1)ウにおける表記の仕方や使い方などとの関連を図ることで、指導の効果を高めることが考えられる。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
〔思考力、判断力、表現力等〕 B 書くこと 推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

さらに、間違いに気付いて正したり、構成や書き表し方の適切さを確かめたりして、整った文章になったことを児童が自覚し、「推敲してよかった」という実感が得られることが大切である。他教科等の学習においても、文や文章を整えることを働き掛け、推敲することのよさを感じられるようにすることが考えられる。推敲することが習慣になるように、働き掛けることが重要である。

ICTを活用して推敲する(学習活動の例)

ここでは、本設問を活用して、文章の構成を推敲する学習活動の例を以下に示す。文書作成ソフト等を用いることで、文を書き加えたりコピーしたりすることができるなどのICTのよさを生かした例である。

この構成で、私の考えがみんなにちゃんと伝わるかな。最後の段落を切り取って、はじめにもってくるか…そもそも、私がいちばん伝えたいことは何かと言うと…

【文章1】

わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしようかいしたという活動がすばらしいと思いました。

一文が長い

この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。

いちばん伝えたいこと

いちばん伝えたいことを文章のはじめに書けば、読む人の印象に残るかな。それと、南さんの話のところの一文が長いから直したいな。

書き直した【文章2】

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思っただけです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をろくがして、各学級にしようかいしたそうです。

この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをはんせいしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。

いちばん伝えたいことをはじめに書いたことで、改めて自分の考えがはっきりしたな。これで、自分の考えがより伝わると思うな。

設問二

趣旨

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと

カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
③	二 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【文章2】のよさについて以下のことを書いている。 a 聞いたことや経験したことをもとにしていること b 最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること c a、b以外のこと ② 【文章2】から言葉や文を取り上げて書いている。 ③ 60字以上、100字以内で書いている。		
	(正答例) ・ わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話や、さいばい委員の活動で反省したことを書いたり、運動委員として進めたい新たな活動を、最後のだん落に具体的に書いたりしたところです。(99字) (解答類型1) ・ わたしの文章のよさは、自分の経験したことをもとに書いたところです。五年生の時のさいばい委員会での自分の活動をもとに六年生で取り組みたいことを書くことで、がんばりたいという思いを伝えることができました。(100字) (解答類型4) ・ 最後のだん落に「運動が苦手な人にも親んでもらえるように、ルールや道具をくふうしたおに遊びやボールゲームを各学級にしようかしたい」と、一年間でがんばりたいことを具体的に書いたところが文章のよさです。(100字) (解答類型7) ・ わたしの文章のよさは、最初のだん落で「この一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです」と書くことで、読む人に六年生としての決意を伝えようとしたところです。(100字) (解答類型10)		
	1 条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、a、bの両方を書いているもの	1.9	◎
	2 条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、条件①については、a、bの両方を書いているもの	0.0	
3 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、条件①については、a、bの両方を書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	1.1		

4	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、 aを書いているもの	15.6	◎
5	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、 条件①については、aを書いているもの	0.3	
6	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、 条件①については、aを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	2.8	
7	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、 bを書いているもの	5.1	◎
8	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、 条件①については、bを書いているもの	0.0	
9	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、 条件①については、bを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	1.7	
10	条件①、②、③を満たしているもののうち、条件①については、 cを書いているもの	15.2	◎
11	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもののうち、 条件①については、cを書いているもの	0.4	
12	条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもののうち、 条件①については、cを書いているもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	4.3	
13	条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの *条件③を満たしているかどうかは不問とする。	28.3	
99	上記以外の解答	8.8	
0	無解答	14.4	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は、解答類型1、4、7、10の合計の、37.9%であった。文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題があると考えられる。
- 正答の中では、解答類型4の反応率が高い。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ わたしの文章のよさは、五年生の時の美化委員長の南さんが、卒業する前に話してくれた活動への思いがすばらしいと思ったことをもとにして文章を書いているところです。(78字)

このように解答した児童は、【文章2】のよさとして、「聞いたことや経験したことをもとにしていること」を書き、【文章2】から言葉や文を取り上げて、60字以上100字以内で書いている。

この中には、【伝え合いの様子の一部】で川口さんが指摘している「上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもとにしている」というよさを踏まえて考えた児童がいたと考えられる。

- 解答類型10の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ わたしの文章のよいところは、最初に、「この一年間でがんばりたいことは」と自分の考えをはっきり書いてから、その次に、「そう考えたのは」と考えの理由を書いたところです。(82字)

このように解答した児童は、【文章2】のよさとして、「聞いたことや経験したことをもとにしていること」と「最後の段落にがんばりたいことを具体的に書いていること」以外のことを書き、【文章2】から言葉や文を取り上げて、60字以上100字以内で書いている。例えば、文章全体の構成や展開について取り上げている解答などが見られた。

この中には、【伝え合いの様子の一部】で川口さんが指摘しているよさを踏まえた上で、他にも自分なりによさを考え、見付けた様々なよさの中から、よりよいものを選んで書いた児童がいたと考えられる。一方で、【伝え合いの様子の一部】で川口さんが指摘しているよさは踏まえずに、これまでに学習した経験などを基にして、自分なりによさを考えた児童もいたと考えられる。

- 解答類型13の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ わたしは、五年生の時、美化委員長の南さんの話を聞き、さいばい委員会で自分が行った活動をふり返って、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを反省しました。(80字)

このように解答した児童は、【文章2】から言葉や文を取り上げている。しかし、【文章2】のよさについて書いていない。このことから、島谷さんと川口さんの【伝え合いの様子の一部】の内容を踏まえるなどして、【文章2】のよいところを見付けることができなかつたと考えられる。

この中には、【伝え合いの様子の一部】の内容を踏まえずに、【文章2】だけを見て、そのよさを考えずに文字数に合わせて語や文を書き写すことにとどまっている児童がいたと考えられる。また、【文章2】のよさを考えることはできたが、それを言葉に表すことができなかつた児童もいたと考えられる。

いずれの場合においても、互いの書いた文章を読み合い、具体的に感想や意見を伝え合うことを通して、よさを見付けたり、よさを言葉に表したりすることができるように指導することが必要であると考えられる。

3. 学習指導に当たって

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

- 「共有」に関する指導事項の定着を図るためには、互いの文章に対する感想や意見を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導することが重要である。自分の文章のよいところとは、第1学年及び第2学年では、「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3学年及び第4学年では、「書こうとしたことの明確さ」、第5学年及び第6学年では、「文章全体の構成や展開の明確さ」などである。

本設問では、「六年生としてがんばりたいこと」を伝えることが目的であり、【伝え合いの様子の一部】において、島谷さんは、「私のがんばろうとしていることが伝わるかな」と川口さんに聞いている。また、【伝え合いの様子の一部】の川口さんのように、「最後の

段落がいいね。なぜかというと、～」というように、よいところを具体的に言葉で表している。

学習指導に当たっては、伝え合う経験を積み重ねていくことで、自分の文章のよいところを見付けたり、それを言葉で表したりする指導が大切である。本設問のように、自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり、感想や意見を具体的に伝え合ったりすることができるように指導すると効果的である。

さらに、互いの文章を読み合うことで、経験の取り上げ方や言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かそうとすることも大切である。自分の文章のよいところを見付ける経験を重ねることが望まれる。

具体的に感想や意見を伝え合い、伝え合ったことを基にして自分の文章のよさを書くことができるようにするための指導事例を次の「授業アイデア例」に示す。

授業アイデア例

「六年生としてがんばりたいこと」 ～文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける～		〈実施対象学年〉 第5・6学年
<p>本授業アイデア例では、ペアで伝え合っている様子を教師が確認し、その状況に応じて、指導したり評価したりする指導事例を紹介します。</p>		
 <p>みなさんはこれまで、「六年生としてがんばりたいこと」を明確に伝えるために、文章全体の構成や書き表し方を工夫して書いてきましたね。 この時間は、みなさんが書いてきた文章を読み合っ、感想や意見を伝え合い、友達の文章や自分の文章のよいところを見付けましょう。</p>		
ペア1	文章全体の構成や展開について伝え合っている例	
 島谷さん	<p>がんばりたいことが明確に伝わるように、自分の考えを最初に書いてみたんだけど、どうかなあ。</p>	
 川口さん	<p>最後の段落で、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年がんばろうとしていることが詳しく伝わってきたよ。私も、こんなふうを書いてみたいな。</p>	<p>【島谷さんが書いた文章】</p> <p>わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子を録画して、各学級にしようかいしたそうです。</p> <p>この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを反省しました。</p> <p>わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も親しむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいしたいです。</p>
	<p>よかった。他に気付いたことはあるかな。</p>	
	<p>五年生の時の反省を生かして、新しい活動を提案することを考えていいよね。上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことを基にしているから、更にながらみたいことが伝わってきたよ。</p>	
	<p>自分ががんばりたいことや工夫して書いたところが伝わってうれしいな。詳しく書いてよかった。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。</p>	
	<p>川口さんは、よさに気付いたり、自分の表現に生かそうとしたりしているな。島谷さんも、自分の文章の構成のよさを見付けることができているな。このペアはこのまま伝え合わせよう。</p>	
ポイント	<p>書き手の目的や意図をペアやグループで共通理解することで、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかを判断することができ、よさを見付けやすくなります。</p>	

ペア2 教師が働き掛けることで、書こうとしたことが明確に表現されているかについての伝え合いから、文章全体の構成や展開についての伝え合いに高まった例



二つのがんばりたいことが伝わるかな。



「運動」と「読書」だね。がんばりたいことが分かりやすいよ。ことわざがあるのもいいね。

古橋さんは、書こうとしたことやことわざについても気付いているな。でも、ことわざを最初の段落に書き加えたよさや文章全体の構成のよさについても気付かせたいな。



小池さんは、推敲のときにことわざを最初の段落に書き加えていましたね。どうしてそうしようと思いましたか。

外国のことわざに「The first step is always the hardest.」というものがある。「最初の一步がいつもいちばん難しい」という意味だ。ぼくは、一度できないと、すぐにあきらめてしまうところがある。また、最初の一步をふみ出すことをめんどろに思ってしまうところもある。だから、この言葉を「今年の言葉」として、次の二つのことをがんばりたい。

一つは、運動だ。好きなサッカーには進んで取り組むが、苦手な鉄棒からは遠ざかってしまう。今年は「最初の一回」ができなくても、あきらめず、練習を続けたい。そして、逆上がりができるようにしたい。

もう一つは、読書だ。今年は長い物語にもちよう戦したい。国語の時間に友達がすすめてくれた本がおもしろそうだったからだ。思い切って「最初のページ」を開き、最後まで読み切りたい。

【小池さんが書いた文章】



自分のがんばろうと決意したきっかけをくれた言葉だったので、文章のはじめに書き加えました。



そうだったんだ。ことわざの「最初の〇〇」を運動や読書のときにも文章全体を通して繰り返し使っているのだから、小池さんの「今年、いろいろなことにあきらめずに挑戦したい」という思いが伝わったよ。



ことわざを書き加えてよかった。意識していなかったけれど、最初に「いろいろなことに挑戦したい」という思いを書いて、その後、具体的なことを書いた構成もよかったんだな。



伝え合いを通して、二人ともことわざを書き加えたことのよさを言語化し、文章全体の構成のよさや内容や表現の一貫性を意識して書くことのよさに気付くことができたみたいだな。

ポイント

書き手が工夫したところを自ら伝えられるように、教師が下書きから変えた理由を尋ねるなどして書き手に思いを表出させたり、工夫やよさに気付かせたりすることが大切です。そうすることで、自分の文章のよいところが明確になります。

ペア 3

教師が働き掛けることで、内容の共感や表現の工夫についての伝え合いから、文章全体の構成や展開についての伝え合いに高まった例



福田さん

みんなが共感してくれるといいなと思って書いたけれど、うまく書けているか不安だな。



村木さん

頼られる六年生になりたいというところがいいね。「じっと」や「そっと」などの言葉がいいね。

このペアは、内容や表現のよさは伝え合っているな。さらに、文章全体の構成や展開のよさを伝え合ってほしいな。働き掛けてみよう。



よい感想ですね。村木さんは、どうして、そう思いましたか。



入学した時の一年生の様子を詳しく書いているから、自分たちががんばらなければならないことがよく分かります。「小さな目から大きなきん張」や「入学した時」と「卒業する時」のように、反対の言葉を使っているのもいいと思います。



たしかに、そうですね。福田さんは、自分の文章で気に入っているところはありますか。



今年、いちばんがんばりたいことを文章の最初に一文で短くはっきりと書いたところは、工夫したところです。



なるほど。今年がんばりたいことを最初に宣言したのですね。その後にきっかけとなったことを具体的に書くことで、決意の強さが伝わってくるのですね。村木さんの言うとおり、「小さな目」と「大きなきん張」、「入学した時」と「卒業する時」など、対比して書いてあることで、「たよられる六年生」ということが更に強調されますね。福田さんは、自分の文章のよさを見付けることができましたね。

【福田さんが書いた文章】

「一年生にたよられる六年生になる。」
これが、わたしの今年がんばりたいことだ。
一年生が入学した時、わたしは教室の前で一年生をむかえた。一年生は、なかなか教室に入ろうとしなかった。ろう下から教室をじっと見つめる小さな目から大きなきん張が伝わってきた。わたしは、そっと一年生の背中をおした。教室に入っていく一年生の後ろ姿を見て、これからわたしがリードしなくては、と思った。
一年生が安心して楽しく学校で過ごせるように、自分から進んで声をかけたり、助けたりしたい。そして、わたしが卒業する時には、あんな六年生に自分もなりたいたいと思ってもらえるような六年生になりたい。

ポイント

必要な場合には教師がペアやグループの伝え合いに参加し、文章のよいところを児童から引き出したり、児童の発言を価値付けたりすることが大切です。

振り返り

自分の文章のよさを書き、学級全体で読み合う



文章について意見や感想をたくさん伝え合うことができましたね。この時間の振り返りとして、伝え合ったことを基にして、自分が書いた文章のよさを書きましょう。

いぼくが書いた文章のよさを
引用したところは、どこに
か「最初のうちは、戦うた
は「最初のうちは、戦うた
い「最初のうちは、戦うた
ことを分かった上です、
二つのが、にまじめに
書くことができた。

【小池さんの振り返り】



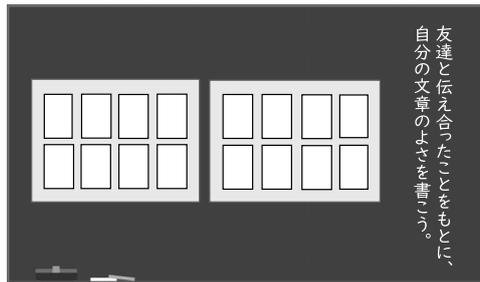
わたしが書いた文章は、
最初にはっきりと書いた
自分の姿を宣言したのが
よかった。きっかけとなっ
た一年生が入学した時の
出来事を具体的に書くこ
とで決意の強さも伝わる
のだと思った。

【福田さんの振り返り】



みなさん、友達が書いた文章のよさだけでなく、自分が書いた文章のよさを見付けることができましたね。お互いの振り返りを読み合っ、次の学習にも生かしましょう。

福田さんの振り返りを読むと、僕と一緒に、最初に簡単に書いて、後から具体的に書いたんだな。福田さんが書いた文章も読みたいな。



小池さんみたいに引用することで、自分の思いを伝える方法もあるんだなあ。

おじいちゃんに成長した姿を手紙で伝えたいな。



小池さん

福田さん

【活用のポイント】

- 学級の児童の状況に応じて、一単位時間の展開を工夫することが大切です。ペア3のように、自分たちだけで文章全体の構成や展開について伝え合うことが難しい状況が多く見られる場合は、最初に学級全体で伝え合いの観点を確認してから、ペアやグループの活動に入る方法が考えられます。一方で、ペアやグループでの伝え合いを終えた後に伝え合ったことを学級全体で交流することが効果的な場合もあります。
- 他教科等において書いた文章を読み合う場面でも、よさを見付け合う活動を展開することが考えられます。様々な場面で日常的に行うことで、自分の文章を読み返したり、そのよさを見付けたりする態度が習慣化されることが期待されます。

設問三 ア、イ、ウ

趣旨

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	三 ア	1 「録画」と解答しているもの	65.3	◎
		2 「録」と解答しているが、「画」と解答していないもの	1.7	
		3 「録」と解答していないが、「画」と解答しているもの	20.3	
		99 上記以外の解答	4.6	
		0 無解答	8.0	
	三 イ	1 「反省」と解答しているもの	58.9	◎
		2 「反」と解答しているが、「省」と解答していないもの	20.6	
		3 「反」と解答していないが、「省」と解答しているもの	1.7	
		99 上記以外の解答	8.7	
		0 無解答	10.1	
	三 ウ	1 「親(しむ)」と解答しているもの	67.2	◎
		99 上記以外の解答	18.1	
		0 無解答	14.6	

2. 分析結果と課題

- 三アの解答類型2の反応率は1.7%、解答類型3の反応率は20.3%である。「ろくが」の「が」は「画」として文の中で正しく使うことはできるが、「録」を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。「録」については、同じ部分をもつ「録」と解答している児童が見られた。
- 三イの解答類型2の反応率は20.6%、解答類型3の反応率は1.7%である。「はんせい」の「はん」は「反」として文の中で正しく使うことはできるが、「省」を文の中で正しく使うことに課題があると考えられる。同じ読み方をする「成」、「生」、「正」、「性」と解答している児童が見られた。
- 三ウは、平成28年度【小学校】国語A①ニ2（正答率74.0%）と同一の漢字を扱った問題である。本設問の正答率は67.2%であり、漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。解答類型99の反応率は18.1%である。同じ読み方をする「下」と解答している児童や、同じ部分をもつ「新」と解答している児童が見られた。また、「楽」と解答した児童が見られたことから、「親しむ」の意味を捉えることができていない児童もいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

同じ部分や同じ読み方をする漢字を注意して使う

- 漢字を文や文章の中で使うことに課題が見られるため、学習指導に当たっては、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要である。

そのためには、同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取組が必要である。その際、同じ部分をもつ漢字や同じ読み方をする漢字に注意して書くことを指導することが大切である。

漢字の学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

- ① 「平成28年度【小学校】報告書」 p.27

<https://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/report/data/16plang.pdf>

- ② 「平成29年度【小学校】報告書」 pp.48-50

<https://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/report/data/17plang.pdf>

- ③ 「平成30年度【小学校】報告書」 p.49

<https://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/report/data/18plang.pdf>

①平成28年度【小学校】報告書



②平成29年度【小学校】報告書



③平成30年度【小学校】報告書



設問四

趣旨

漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。

(イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	四	1 1 と解答しているもの	2.5	
		2 2 と解答しているもの	7.6	
		3 3 と解答しているもの	5.7	
		4 4 と解答しているもの	78.0	◎
		99 上記以外の解答	0.3	
		0 無解答	5.9	

2. 分析結果と課題

- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は13.3%である。この中には、相手の読みやすさを考えて、「文字の大きさ」や「文字と文字との間」に注意して書くことの大切さは理解しているものの、島谷さんが、行の中心に文字の中心をそろえて書き直していることを捉えることができなかつた児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く

- 漢字や仮名の大きさとは、漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのことである。画数の多い文字ほど大きく書き、画数の少ない文字ほど小さく書くと、並べたときに読みやすい文字列になる。配列に注意してとは、行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているなど文字列及び複数の文字列に注意してということである。読みやすい文や文章を書くには、一文字一文字を整えることに加え、文字の集まりという面から整えることが重要である。

本設問では、島谷さんが、手紙を書き直す際に、相手の読みやすさを考えて、行の中心に文字の中心をそろえて書いていることを捉えることが求められる。

実際の授業においても、相手にとって読みやすいかということ意識して書くことを指導することが重要である。その上で、本設問で手紙を書く場面を設定したように、漢字や仮名の大きさや配列に注意して書く場面を設定すると効果的である。毛筆で学習したことを日常生活で生かすことを意識できるように指導することも大切である。

書写の学習指導に当たっては、以下の資料も参考になる。

(参照)

「平成28年度【小学校】報告書」p.47

<https://www.nier.go.jp/16chousakekkahoukoku/report/data/16plang.pdf>

